

文化・スポーツの可能性を信じて！！

文化・スポーツ・観光・福祉

○『神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会が5月に開催！！』

予算議会  
質疑のポイント

- ☑ 2021年9月に開催予定であったが、コロナ禍による二度の延期を経て、いよいよ、今年5月に開催を迎える。
- ☑ 円滑な大会運営や大会を通じた障がい・多様性への理解の促進、神戸の魅力の世界への発信に向け、準備は仕上がっているか。
- ☑ 171の種目におよそ1,300人の選手が参加する。アスリートが力を十分に発揮できる最高の舞台となるための取り組みは。



今年の夏に開催される「パリ・パラリンピック」の最終選考会を兼ねている。円滑な大会運営については、客室のタイプやバリアフリーの対応、宗教や食の多様性にも配慮した食事のメニューなどを準備している。各国選手団の輸送手段として車椅子利用者のアクセシビリティにも配慮し、大型リフトバス、ノンステップバス、福祉車両など、多様な車両を確保している。

大会を契機に、次世代を担う子供たちの障がいや多様性への理解を促進するために、100を超える学校の観戦会を実施を予定している。

マスコミ関係者に対しては、神戸の食を味わいまちを巡るメディアツアーを開催し、メディアセンターでは、神戸観光のPRの動画を放映するなど、神戸の魅力を世界に紹介する。また、競技を盛り上げるためのDJによる実況アナウンスなど、高揚感を得られる演出も考えていく。

○震災から30年を迎える神戸ならではの文化芸術面での発信を！！

令和6年度予算では、震災30年関連事業がいくつも計上されています。震災後数週間が経った頃から、ボランティアによる避難所での慰問活動が自然発生的に始まり、自衛隊音楽隊の慰問演奏受け入れなどに文化振興財団が関与していくようになりました。不条理な災害を受けた後、衣食住を満たす最低限度の避難生活が続く中で不満・不安・絶望が募る中、音楽や身体表現、美術など、復旧・復興とは無縁とされていた文化芸術活動が、人々の心に癒しと未来への光明を示しました。

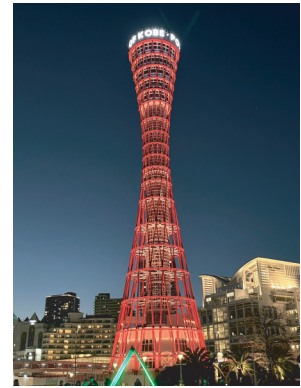
阪神淡路大震災から30年目を迎える節目の年にあたり、震災復興に文化芸術が果たした役割をどう評価し、どういう形で発信していくのか、質疑しました。

経済の活性化を目指して！！

経済・港湾

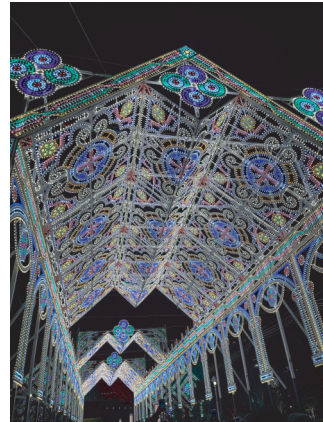
○『神戸ポートタワー』リニューアルオープン！！

本年4月のリニューアルオープンを大きな契機ととらえ、近接する中突堤周辺地区の再整備の進捗と今後の展望に関連した賑わいづくりの取り組みについて、質疑しました。また、新港第2突堤で開業する「ジーライオン・アリーナ・神戸」の建設に併せて、公共緑地や賑わい施設の整備が行われます。突発的に自然災害が発生したときの来場客の避難誘導も含め、防災対策をどのように講じる予定であるのか、質疑しました。



○『神戸ルミナリエ』に230万人！！

4年ぶりの本格開催であり、地域経済への波及効果を検証するために、売上高への貢献、人流増減の客観的・定量的な検証も必要ではないか。また、近隣の飲食店等に立ち寄ってもらう仕掛けとして、有料エリアの入場者などに配布するQRコード付きカードの効果について、質疑しました。今回の課題が活かされるよう、頑張っていきます。



○若手・女性が活躍する商店街！！

高齢化や担い手不足が進む商店街の活性化には、若手や女性が商店街で活躍できる施策を進めていく必要があると考えます。若手・女性向けに商店街等への出店支援制度についての実績と、制度の拡充や柔軟な見直しを検討するよう、質疑しました。

○可能性広がるスタートアップ施策！！

- ①グローバルを意識したスタートアップの支援
  - ②地元の産官学金からなるコンソーシアムを活用した神戸ならではの成長・ロールモデルの創出
  - ③市内の中小企業との連携を図っていくという答弁が、秋の「決算特別委員会」でありました。
- Microsoftのラボ（右写真）が神戸商工貿易センターに開設されるなの変化を踏まえ、スタートアップ施策の重点分野として取り組みを、質疑しました。

